

令和7年第2回教育委員会会議録

1 日時

令和7年2月6日（木）10時00分

2 場所

教育委員会会議室

3 出席者

教 育 長：石橋正信

教育委員：町孝、原志津子、武部愛子、徳成晃隆、沖田由香

事 務 局：福田教育次長、木下理事

中尾総務部長、峯川職員部長、吉安教育環境部長、奥田部長（学校施設アセットマネジメント担当）、浦塚教育支援部長、齊藤指導部長、山田部長（高校教育等担当）、深堀教育センター所長、松崎総合図書館長、中野総務課長、平川教育政策課長、若松職員課長、横畠労務・給与課長、氷室教育環境課長、西尾施設課長、石田教育支援課長、石橋学校企画課長、井上小学校教育課長、大坪高校教育課長、永田教育ICT推進課長、中野教育相談課長、松本発達教育センター所長、宮寄経済観光文化局美術館事業管理課長

4 会議事項

(1) 付議事項

付議案第7号 附属機関委員の人事について

付議案第8号 議会の議決を経るべき議案に関することについて

付議案第9号 議会の議決を経るべき議案に関することについて

付議案第10号 議会の議決を経るべき議案に関することについて

付議案第11号 事務局等職員の人事について

(2) 臨時代理報告事項

なし

(3) 協議・報告事項

協議・報告ア 令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

協議・報告イ 第3次福岡市教育振興基本計画の策定について

5 開会

教育長開会を宣告 10時00分

付議案第7号及び第11号は人事に関する案件のため、第8号から第10号までは議会の議決を経るべき議案に関する案件のため、協議・報告イは議会に報告する案件のため、議決により非公開とされた。

6 付議事項

▼付議案第7号 附属機関委員の人事について

宮寄課長より説明

《原案どおり可決》

▼付議案第8号 議会の議決を経るべき議案に関するについて

横畠課長より説明

《原案どおり可決》

▼付議案第9号 議会の議決を経るべき議案に関するについて

中野課長より説明

《原案どおり可決》

▼付議案第10号 議会の議決を経るべき議案に関するについて

若松課長より説明

《原案どおり可決》

▼付議案第11号 事務局等職員の人事について

若松課長より説明

《原案どおり可決》

7 臨時代理報告事項

なし

8 協議・報告事項

▼協議・報告ア 令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

石橋課長より説明

〔質疑等〕

(町委員)

○ 私は、大学生の頃は保健体育の先生になるつもりで免許もとったこと、インターハイにも出たこともあり、この分野への強い思い入れがある。2016年に別府小中学校で公開授業をしたときに、体育専門の先生方を前に5分程度お話しさせていただいたことがある。知・徳・体でいうと、体の部分が弱いと感じていたのが、その際述べさせていただいたのが、教え方が分からないという方が先生方の中にもいらっしゃるだろうということを申し上げた。福大で教えていたときに、女子学生に手を上げてもらって25年間ずっとデータを取ったが、年々運動しなくなった子が増えてきた。今回、女子の方が全国平均より低くなっているのは、昔からの傾向なので仕方ないことかもしれないが、運動の楽しさなどをもっとアップしていく必要があるのではないかと思う。お尋ねするが、福岡市の場合は、20メートルシャトルランと長距離走のどちらでもよいとあるが、20メートルシャトルランは男女とも、結構成績が良い。長距離走を選択せずにシャトルランを選択しているのは運動場の関係なのか。また、スクリーンタイムと運動習慣との関係が、福岡市の場合はスクリーンタイムが少なくても良いが、運動との関係では相関がないのか。また、資料5ページの先生方の授業との関係でいうと、「体育授業の目標を児童生徒に示す活動を取り入れているか」という質問に対する回答、「いつも取り入れている」、「だいたい取り入れている」を合わせると全国平均と変わらないが、「いつも取り入れている」の部分が全国平均より少ない。また、資料6ページ、体育の授業が楽しいと感じるもう一つの要因として、ICTを含めた教員の指導力向上が必要であるということと、資料7ページ、外部人材の活用については是非進めていただきたい。

(石橋課長)

○ 中学生は、シャトルランと持久走については選択することができることはなっているが、持久走については1,500メートル程度走るもので、最近はいろいろな環境条件があるが、シャトルランについては体育館の中ででき、そちらの方が正確に記録を取れるということで、多くの学校でシャトルランを選択している。

(徳成委員)

○ 毎年調査結果の報告を受けて、いろいろな努力、工夫をされていることが伝わってくる。傾向としては、柔軟性に欠けるのが福岡市の大きな特徴ではないかともみている。上体起こしや長座体前屈が毎回かなり低い。調査目的が、施策の成果と課題を検証し改善を図る、指導などの改善に役立てるということであるから、何とか年に一度のこの調査結果を生かしながら子どもたちの体力向上を図っていかねばならないのではないか。この体力テストの項目については、毎年そのテストの時にしか行わないようなものばかりで、シャトルランにしても握力にしても計測はその時だけだが、その時の数字だけ上げればよいというわけでは決してないことは理解する。乳幼児からの運動能力・体力向上については、動きの多

様化と動きの洗練化の二つが示されている。様々な体を使った動きの多様性を増やしていくということと、繰り返すことで洗練されていくといったことが、乳幼児から小学校、中学校まで継続していくことで、子どもたちの運動能力・体力が高まっていくのであろう。体力テストをするのであれば、子どもたちに意識させ何か月かかけて数値を上げてみよう、あるいは学校単位で、うちの学校はこの数値を上げてみようといった取組みがあってもよいのではないかな。あるいは、先生も一緒になって子どもたちと競い合ってみる、前年度に比べて成果が上がった学校を表彰するなどいろいろな楽しみ方を取り入れながら体力測定、体力テストに取り組んでみることもいいのではないかな。1点お尋ねするが、資料7ページ、今後の取組みの中に各学校の取組みとして、「子どもが主体となって体育的行事を企画するなど、体力向上や運動の楽しさを実感できる取組みを計画的に実施」とあるが、体育的行事、子どもたちが創り出す企画とはどういったものを考えているのか。

(石橋課長)

- おっしゃるとおり、体力テストの時だけ頑張ればよいというものではない。その時だけでやってもあまり結果は出ないということは認識しているので、日常的な学習の中で、準備運動や、体づくり運動を含めたいろいろな運動ができるために体力向上推進委員会で考えながらアイディアを発信しているところである。ちょうど本日午後から体力向上に関する研修会を実施するので、その辺りも含めて説明していきたいと思っている。子どもが主体となって体育的行事を考えていくことについては、これから大事にしていきたいと思っているところであり、中学校においては、体育専門委員会を中心とした球技大会などについて、子どもが運営していく仕組みになっておりそういったものを充実させていく。小学校においては、児童会の中で月の重点を決めて、今月は体力向上のために中休みに縄跳びをしようといった取組みを子どもたち自身が考えていくといったことを大事にしていきたいと考えている。

(徳成委員)

- 是非いろいろな取組み例を先生方で話し合っていただければと思う。最初に述べた柔軟性の問題についても、日々の積み重ねであり、体育の時間だけでなく、教室でも動的ストレッチや静的ストレッチは簡単にできる取組みであるので、是非生かしていただければいいのではないだろうか。

(原委員)

- この調査結果でいつも大事だと思っているのは、運動習慣の形成である。特に女子は、中学校では上がってきているものの、小学校5年女子は全国平均を下回っているところが気になるころではあるが、自分たちで体を動かすことが楽しいと思わないと、運動が好きな子はどんどん伸ばしていけばよいと思うが、運動

が苦手な子、運動の習慣がない子については、自分がそういう風に思っていかなければ動かないだろうし、それが今後の将来の運動習慣の形成に大事なことだと思うので、その辺りを重視していただきたい。自分で動いてみたいなという気持ちを大事に育てていっていただきたい。

(石橋課長)

- おっしゃるとおり、ここまでできる、技術を高めるということが大事なのではなくて、その子が、その子に合った目標を立てて少しずつ達成していくことが大事であり、それが意欲に繋がっていくのではないかと思っている。そういった観点からの授業改善が大事だと思っている。

(武部委員)

- 握力は体力と違う部分があって、粘り強さと、力を入れるコツといったものが影響していて、握力が全国平均より低いところは気になる、いわゆる発達のなところもあると思ったところである。先ほど生活習慣の話で女子がということがあったが、可能ならばいつ頃から推移しているのか、スクリーンタイムとの関係も含めて、資料には小学校5年だけが載っているが、おそらくスクリーンタイムについてはデータがあると思うが、運動時間についてはこの時だけ取られている可能性もあるので、何年生頃から女子が少しずつ下がってきていて、スクリーンタイムが増えてきているなど、もう少し広い幅で分かると面白いと思った。私が知っている学生の中には、教員になると体育を教えなければならないが、体育とピアノが大きなハードルになっている子たちがいて、体育を教えるのが嫌だから学校の先生になるのは無理という子もいるので、その辺りについて、小学校のもう少し下の学年で運動習慣とスクリーンタイムのところが分かればよいと思った。

(石橋課長)

- 握力については、筋力の一つだと思うが、筋力も柔軟性も単発では育てられないので、日頃の準備運動なども含めて工夫する必要があると思っている。小学校低学年からの運動習慣について、体力テストはやってもらっているが、アンケートは取っていないので、今後そういったことができるかも踏まえて検討していきたいと考えている。

(町委員)

- 武部委員がおっしゃったように、女性が教えるのが苦手だという方が結構いらっしゃるのでは、お尋ねだが、昔は水泳50メートル泳げないと教員になれないというような制度があったが、今の教員採用試験では水泳の試験はあるのか。

(石橋課長)

- 私が受けたときは、まだ二次試験で水泳の試験があった。現在は、水泳の実技試験は行っていない。

(町委員)

- 教えることが苦手という方が結構いらっしゃるの事実なので、先ほどあったように外部のプロの力を借りることは今後大事になるのではないかと思います。その辺りを是非進めていただきたい。年々データ等の分析が詳しくなって、資料として良いものになっているが、結果がいまいちなので、是非もうひと踏ん張りやっていただきたい。

(沖田委員)

- 運動が苦手な子どもたちが、体育が楽しいと思える授業にしていいただきたいというのが親としての希望である。そういったことを体育の先生方全員に、指導方法の共有などをしていただきたい。

(石橋課長)

- 毎年体育の教員を集めて、座学ではなく実際に体を動かす研修も行っており、そういったところの充実を図っていきたいと思っている。また、運動が苦手な子について、体育は、実際にすることも大事だが、見る、体育をする上で支えるといったことも言われており、それらも含めて運動、スポーツに興味関心を持つことができるように工夫していきたいと思っている。

▼協議・報告イ 第3次福岡市教育振興基本計画の策定について
平川課長より説明

9 閉会

教育長閉会を宣告 11時23分